KSKPゆめごよみ風だより 第３種郵便物承認 通巻12742号　2024年9月11日　発行

編集人　特定非営利活動法人　ゆめ風基金事務局

（〒533-0033大阪市東淀川区東中島1-13-43-106）TEL06-6324-7702

ゆめごよみ風だより108号

INDEX（見出し）

・巻頭言

・能登半島訪問報告

・あすなろふたばぱいんの会のいまとこれから

・『知らなかった世界』

・リレーエッセイ　災害と障害者　第81回

・ゆめ風30年企画

・応援団からこんにちは！vol.10

・カンパをいただいた団体/事務局の動き

・会計報告

・各地からの風だより

あの日の記憶から

監事　うまがき　やすよし

29年経っても消えない衝撃。午前５時46分、目の前の車が飛びあがった（実際は浮いたか？）。「ワァ～」ひっくり返る。「何なんだ！」と四つん這いになって地面に這いつくばったまま唸り、波打つ地面。多分数十秒…？ 何が起こった！？ そして周りを見渡した。小さな漁港の入り口、淡路ぬしまの磯の釣り場の渡船乗り場はぶ漁港。

　大きく揺れる数本の電柱から防波堤に続く電柱と街灯が振り子のように揺れている状況に波打つ地面。何が何だか解らず、不安と恐怖。そして巨大地震か？ 一体どこが震源？ 次は津波！ すぐさま津波が来ればこの港から上の道まで逃げられるか？ ひとたまりもないかも等、色々な不安で混乱状態に陥っていた時。

　当時、釣りクラブを主宰しており、淡路島近海紀伊水道北西部の沼島周りの小磯がホームグランドでした。渡船で沼島周りの小磯の釣り場に渡して貰うために淡路島土生港に午前４時過ぎに到着。同行のクラブメンバーと阪神高速経由たこフェリーと島内をひた走り、道中今までになく狸に鹿にテン等小動物に数多く出会い、同乗者に「何か今夜は彼らも騒々しいね」と話しつつ到着した土生港の海はベタ凪。釣果を期待しつつ、調子を見るために防波堤で少し試し釣りで竿を出し様子見の時。さざ波一つない鏡のような海面を見て「こんな海、初めてだね」とメンバーと「今日は大漁予感だね」と渡船の迎えに向けて車に戻り、渡船渡しの釣りの準備をしだしたそのとき、ド・ドドンと地面が唸り跳ねた！のだった。

　いつもの優しい声の渡船の船頭さんが大きな声で、「船の走行中によく解らないが大きな地震が起こったと思う。津波の危険もあるので沖に避難するのであなたらも避難を」と言い残し、波止を離れて行った。アッ！ 津波が来たら逃げられる？ 上の道から急な坂を降りた漁港だ。そのときに地元淡路の仲間たちが「島で大地震！震源地で津波は大丈夫」。その頃には地元の仲間達に自宅から「家が傾いた」「潰れた」等、何人もの携帯に連絡が入り続けるさなかに我々の事も気にかけてくれて、大阪に帰れる手段を地元の友人関係の居る複数のフェリー会社に問い合わせて貰い、フェリー会社の関係者のサポートのお陰で港の液状化寸前に和歌山深日港行きに一台スペースを確保頂き、午後には26号線を走り地元に向かう事が出来た。

　車でナビのTVから流れる速報には鳥肌が立つ思いと不安な心持ちでひた走り続けた。しかしその頃になると電話が通じず、車のTVやラジオも同じことを繰り返し情報が無く不安は募るばかりの…特に長田地区の火災には…あの人は先輩達はと…。淡路島で指定された港に向かう途中の倒壊した家々、倒れた鳥居や灯籠。本当にどこが？ どれだけ？ 何が何だか解らぬ不安…どこがどれだけ破壊してる…？ 情報が少ないことで不安は募るばかりで、自身の関係する現場のことや昨夜走った高速がなぎ倒された映像に、もう少し時間がズレていたらと心は落ち着かない状況で高速は閉鎖され、国道をノロノロと走り続け淡路島ほどでないが崩れた塀や傾く木々を横目に夕刻やっと地元に戻った。

　自身の係わる数カ所の作業所にグループホームの内部の散乱に一部階段の基礎や壁のひび割れ等あるものの大きな被害は免れました。関係者は「今淡路島から戻った」と言っても俄かに信じ難い雰囲気に振り返ると、本当によく当日に帰れたものだと改めて思った記憶が生々しく残っている。

　翌日、今は亡き当会の副代表の「ゆめ風10億円基金」提案者のかわのさんから連絡が入り、「大変な事態になっているが状況がはっきりしない。動けるなら出来る範囲で状況を見てきてほしい」との連絡を受け現状を知るべき被災地に向かった。倒壊した阪神高速には肝を冷やす。なぜなら数時間前に走った事が想いを強くした。どこを見ても今まで経験のないすさまじい光景に驚愕し、発生時の恐怖が生々しく蘇る。部屋で僅かな空間で圧迫死を免れたり、危うく倒壊した家で家具で出来た僅かな隙間で助かった被災障害者・障害の仲間の現状の命ギリギリ被災は私の比ではないとは思いますが、正直本当に恐ろしかった。あの突然の恐怖から29年、幾度となく繰り返される災害が起こるたびに災害弱者への対応のまずさに悔しさを覚えます。災害は何時どこで起こるか解りませんが、備えあればです。日々新たな出会いの機会があるたびに名刺交換をし、名刺裏面に敢えてゆめ風基金の活動を入れるようにしています。ゆめ風基金を話題にし伝える事から防災減災を願いつつ、地元の仲間と行政交渉や募金活動等に取り組み、１人も災害弱者を生み出さない社会に向けて出来る限りの事をしたいと思っている。

事務局より

能登半島訪問報告

やはた　たかし

６月から７月にかけて延べ５回にわたり、事務局の全員が能登半島を訪問しました。訪問の目的は、福祉避難所調査、各障害者事業所の困りごと調査、障害者事業所支援など様々です。共通に感じたことは、復興があまりにも遅いということです。

　東日本大震災では震災から５か月ぐらい経った頃には、町の中は重機やトラックなどがあふれ、震災後の家屋の片づけなどで粉塵が飛び交っていました。また町のいたるところでボランティアがあふれ、道路は工事車両や警察、自衛隊等支援をする人たちの車であふれていました。しかし奥能登ではそのような風景がありません。輪島市の火災が起きた現場でも重機が２台で細々と解体をしており、ほとんど焼け跡は残っています。壊れた家屋も倒れたビルもそのままの状態で残っていました。地元の人から「いつまでたっても震災の傷跡がそのままなので、心も晴れない」と聞きました。石川県としての家屋の公費解体完了は来年10月が目標ということで、まだまだ復興どころか家屋の片づけさえ終わらないようです。

　私自身は今回の地震で震災直後に開設された福祉避難所の調査が目的で、東北福祉大学のいしづか　ゆうこさん、大阪大学のあつみ　きみひでさんと、実際に福祉避難所を開設した施設や輪島市、珠洲市などの行政の方と話をしてきました。福祉避難所を開設した8ヶ所中７ヶ所の施設は、災害当日に通所サービスの利用者や近所方々が詰めかけ、行政からの依頼なしで自主的に開設されました。

　すでに多くの自治体が福祉避難所協定を施設と結び、「福祉避難運営マニュアル」を策定しています。これは内閣府が策定した「福祉避難所の確保・運営ガイドライン」に沿って作られたものですが、実際の災害に対応できないのではないかと思ったのが、この調査をするきっかけです。

　ゆめ風基金では震災の翌週から毎週、被災地を支援する関係団体に集まっていただき、どのような支援をするべきか、能登の現状は今どうなっているかと話し合う会議をしています。今回の訪問で被災した施設がどのような現状にあるのかを聞き取ることで、お互いに顔の見える関係で支援をすることができるようになりました。

　限られた紙面で詳しい報告はできませんが、ホームページやブログ、メーリングリストなどでお知らせしますので、是非ご覧ください。

イベントのお知らせ

第１９回　ゆめ風であいましょう

今年もやります！

くわしくは同封チラシをごらんください！

こむろ　ひとしさんの音楽もお楽しみに！

日時：12月6日（金）18時半スタート

会場：練馬区ココネリホール

テーマ：能登半島地震であらわになったこの国のあやうさ

～阪神淡路大震災、東日本大震災の教訓は生かされたのか？～

ゲスト：もちづき　いそこさん（東京新聞記者）

進行：こむろ　ひとしさん

共同連マラソントークin大阪

能登半島地震から学ぶ№２

『被災地の今を知り、私たちができることとは…』

被災地の現状を現地の方からお話をうかがい、学び、動いていけることを探りたい思います。多くの方々ご参加お待ちしております。

日時：10月19日（土）13時～

会場：箕面市立船場生涯学習センター

参加協力費：500円

※20％ゆめ風基金へカンパといたします。

※当日カンパ箱も用意します。ご協力よろしくお願いします。

被災地から

令和6年能登半島地震におけるあすなろふたばぱいんの会のいまとこれから

輪島市　あすなろふたばぱいんの会　理事　かわもと　ひろやす

平成15年より医療法人松原会にて精神保健福祉士として勤務。能登の地で誰もが安心して暮らせるように関わり続け、令和４年よりあすなろふたばぱいんの会の理事に従事。地域共生社会に向けて利用者と共に歩み中。

あすなろふたばぱいんの会は、石川県輪島市にて、安心できる居場所や障害者の「働く」を支援する就労継続支援B型事業所で、内職や珈琲豆の焙煎・販売を主な仕事として取り組んでいます。

令和６年能登半島地震が発生し、私たちの事業所もガラスが割れる、トイレの排水管が壊れる、室内の壁が剥がれ落ちる、外の階段がずれるなどの被害がありました。利用者や家族、職員は、それぞれの避難先に避難し、幸いにも全員無事でした。避難所や被災した自宅、地域で過ごされる等、いつもと違う環境の中で生活をし、不安がありながらも被災直後より事業所がどうなっているのか、他の皆は無事なのかと様子を見にくる利用者がおられ、安心したいとの話も聴かれました。その中で、利用者や家族の方々と一緒に事業所の片付けなど、できることから一歩ずつ、始めました。断水していましたが、片付けの休憩の時には頂いた水を使い、被災を免れた珈琲豆で、皆でほっと一息できる場になるように取り組みました。

被災前は14人の方が利用していましたが、１月の利用者は２人でした。事業所の修繕は今現在もできておらず、地震が発生したままの状態ですが、ゆめ風基金をはじめ、多くの方々に支援を頂く中で、利用者が通えるまでに準備が整いました。２月５日より事業所を再開、半日より開始となり、電話による相談支援も開始しました。利用者の生活環境も変化するなかで、少しずつ利用者が戻り始め、５月には９人の方が利用されました。

再開するなかで、仕事の確保が課題の１つでした。珈琲豆の焙煎・販売においてはいままでのお客様だけでなく、ボランティア等に来て頂いた皆様、全国のイベントでの販売など少しずつではありますが増えてきており、皆様のおかげで仕事をすることができています。しかし、被災前に比べて内職など当事業所全体として仕事の量は減っています。他にも利用者の人数の減少、送迎の難しさなど課題は多くあります。だが、利用者の「一刻も早く普通にもどりたい。みんなと会いたい。また笑いたい」の想いが実現できるように、みんな一丸となって頑張りますので、これからも応援、お願い致します。

知らなかった世界

能登町　自立支援センターみずほ　事務長　たかみや　のりこ

高齢者施設、障害者施設を運営。アットホームな施設運営を心掛けています。

この度の能登半島地震に際し、たくさんの方々のご支援に感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

まさにこの地震は私にとって「知らなかった世界」でした。こんなに大きな揺れも初めてでしたし、もちろん倒壊した建物を実際に見るのも初めてでした。悲しかったし、辛かったし、夢だったらいいのにと何度も思ったものでした。

しかし、「知らなかった世界」はそればかりではありませんでした。

１月４日、避難していた事務所で私は各方面の連絡の対応に追われていました。そんな中届いたファックス。「ゆめ風基金被災地支援金助成要綱」でした。目を通しましたが、当時の私は何をどう助けてもらったらいいのかもわからない状態で、とりあえずBOXに書類を入れたままにしていました。しばらくして金沢の徳田さんからお電話をいただきました。「状況はどうですか？ 身体は大丈夫ですか？何でも言ってください」との言葉に有難いなと思いながらも、すぐには支援を申し込むことはできませんでした。ほんとうにこんなことあるんかな。どれくらい助成してもらえるんだろう。と半信半疑だったのです。

徳田さんはしばらくしてまた電話をかけてくださいました。優しい口調の徳田さんとお話しているうちにようやく心の整理もできて「今は甘えていいんだ。今回は助けてもらおう」と思うようになったのを覚えています。

私達はこの地震で全国からたくさんのご支援を頂戴しました。物資の支援であれ人的支援であれ片付け支援であれ、こんなに私達に心を寄せていただき、すぐさま行動してくださる皆さんの様子は、まさに「知らなかった世界」でした。こんなにいい人ばかりいる日本ってすごい。その気持ちと行動にどれだけ勇気づけられたかわかりません。本当に有難かったです。経験してみてわかったことでした。

地震で施設や日常を奪われたけど「知らなかった世界」を経験できた事、これも運命だったんだと思えるようになりました。被災状況をお伝えすることもできますが、この「知らなかった世界」もお伝えできればと思い寄稿のご依頼を受けさせていただきました。

皆さまのお気持ちに感謝申し上げます。私たちは一歩一歩前に進めています。

リレーエッセイ　災害と障害者　第八十一回

新たな連携を目指して

ふじい　かつのり

NPO法人日本障害者協議会代表。都立小平養護学校の在職中に、地域での作業所づくりや共同作業所全国連絡会（現在のきょうされん）の結成に参加。30代前半で退職。その後は、NGOの立場で障害関連政策の改善に専念。現在は、日本障害フォーラム副代表、きょうされん専務理事。

共通性と相違性

　大規模自然災害に見舞われるたびに思うことがある。キーワード風に言えば、「共通性」と「相違性」。共通性とは、いずれの災害にもつきまとう不可避的な傾向であり、相違性とは災害ごとの固有の問題事象である。このことは、この30年間の大規模地震を並べてみても明らかだ。阪神淡路大震災（1995年１月17日）、東日本大震災（2011年３月11日）、熊本地震（2016年４月14日・16日）、そして今般の能登半島地震（2024年１月１日）と続くが、共通しているのは、おびただしい数の死傷者を出したことであり、復旧・復興に長期の歳月と莫大な経費を費やすことである。

　他方で、相違性（固有性）を見て取ることができる。前述の発災順で言えば、都市部型、超広域型、関連死顕在型、人口過疎地帯・半島型と特徴づけることができよう。相違性には、原発の有無、発災時期（季節要因）、高齢化率なども加わってくる。私たち障害分野が、災害政策や支援策を論じるにあたっては、とりあえずは「共通性」の視点から迫っていっていいのではなかろうか。

当事者参加

　もう一つ思うことがある。国をはじめとする災害に関する審議会や検討会の無力ぶりである。いずれの報告書も見栄えはいい。ただし、いつも思うのは読後の違和感である。ひと言で言えば、魂が感じられない。「見栄えはいいが的外れ」と言ってもいいのかもしれない。

　例えば、能登半島地震で問題とされたのは、初動救済・支援の遅れであり、障害者や高齢者のための福祉避難所がほとんど機能しなかったことだ。行政や専門家のあいだから聴こえてくるのは、「悪い条件が重なってしまった」（発災時期、地形的な要素など）「想定外だった」などである。いずれも聞き飽きたフレーズである。そもそも、自然界を相手とする災害政策は、「想定外との勝負」なのである。聞き飽きたフレーズは、自ら想像力の乏しさを露呈しているようなものだ。

　筆者は、かねがね「政策は何を作るかよりも、誰がつくるかが決定的」と主張してきた。災害政策もしかり。答えは明確である。政策の審議や決定の過程に、障害当事者や家族、それに日常的に障害のある人を支えている人を加えることである。関連審議会の構成の過半数は、広義の当事者で占めるべきである。見栄えはよくなくとも、現実的で魂のこもった災害政策が仕上がるに違いない。

２倍でなく等倍に

　以下、「災害と障害者」に関連して、普段から気になっていることを三点略記する。一つ目は、「障害者の死亡率は全住民死亡率の２倍」を絶えず念頭に置くことである。この数字は、東日本大震災の折に、複数の報道機関より公表されたものだ。おかしな言い方かもしれないが、障害の有る人も無い人も「等倍」でなければならない。「２倍の死亡率」に、「災害と障害者」の本質を垣間見ることができよう。残念ながら、国は東日本大震災時の「２倍の死亡率」について、未だ検証を行なっていない。

　二つ目は、「忘れない」を意識することだ。最大の支援は「被災地を忘れない」であり、同時に「忘れない」は、次なる災害への備えにもつながる。記録文や関連映画をみるのもいい、被災地を訪れるのもいい、被災事業所から製品を買うのもいい、身近な人とディスカッションするのもいい、多様な方法があるはずである。

　三つ目は、平時の障害のある人を支える水準を問い続けることである。障害者が地域で暮らすための条件（人的、物的）が手厚いほど、被災や復興に好影響が出ることがわかってきている。平時の支援水準と災害問題とをつなげる視点が肝要となる。

連携に新たな兆し

　日本障害フォーラム（JDF）は能登半島地震においても、現地に支援拠点を設けるなど、「当事者目線」の活動を開始した。じっくりと構えていきたい。今般、気付かされるのは、従来に増して幅広い連携が形成されていることだ。地元の障害当事者や関連団体のニーズをベースに、ゆめ風基金や難民を助ける会、企業財団との連携は新たな段階に入っているように思う。具体的な支援活動に磨きをかけていくことに加えて連携の幅と質も大きく発展させていきたい。

ゆめ風30年企画　第3回

2025年(来年)は、阪神淡路大震災から30年、ゆめ風基金発足30年を迎えます。過去の災害を忘れず伝え続けるため、発災当時、救援活動の中心として活動されていた方々に当時の様子を振り返っていただきます。

災害時の障害者の命を守る為に

生活支援研究会　理事長　たなか　じゅんこ

ゆめ風基金30周年迎えましたね。阪神淡路大震災の時は大変お世話になりました。私は、19歳で震災を体験しました。当時、神戸の須磨区の車椅子住宅に住んでいて、被災しました。自分の部屋で寝ていて扉が開かない状態で、障害があり、自分で扉を開くことができず、兄に助けてもらいました。車椅子住宅なので、一階から車椅子に乗り、すぐに避難できたことは良かったと思います。他の障害者はエレベーターが止まり、３日くらい家に閉じ込められたという話を聞き、震災の時は上の階に住んでいる障害者は困ると痛感しました。

私が一番困ったことはトイレでした。車椅子トイレが震災で使えず、全部を把握しているわけもなく、トイレをするのに困り、市営住宅のガレージの所にポータブルトイレを置いてタオルで隠して祖母に手伝ってもらい、トイレをして大変でした。

　母は仕事で、家にはおらず、祖母と兄に助けられました。避難所には行かず、１週間親戚の家に避難させてもらいました。親戚の家もバリアフリーではなく、お風呂もトイレも苦労しました。大阪にある早川福祉会館という所が障害者に避難場所として場所を提供してくれるということを聞き、１週間後に避難させてもらいました。そこで２ヶ月間、仲間の障害者と避難生活をしました。

　各地から100名以上のボランティアが来てくれて、非常に助かりました。ただ、介護面ではせっかく慣れた時にボランティアが帰っていくことの繰り返しで、教えるのが大変でした。長く滞在してくれる人が貴重な存在でした。たくさんの人に支えられ、また、ゆめ風の人も支援を受け、感謝しています。その支援がなかったら震災を乗り切ることが非常に困難だったと思います。

　今回、正月に能登の災害が起きて、障害者がどうなっているのか報道もされず、心配しています。ゆめ風も募金などして現地の調査もして頑張っていると聞いています。何か災害があれば動いてくれるゆめ風には本当に感謝しかありません。ただ今後、大きな地震や津波に向けて、自分達でも対処を考える必要があると思います。また、ゆめ風には色々教えていただけると嬉しいと思っています。

　津波や地震は予期しない時に起こります。普段の備えが大事だと思っているので、私達は派遣事業所で普段活動していて、あまり考える時間がないのですが、みんなの命を守れるように備えたいと思っています。

ゆめ風基金30年記念イベント　開催日程のお知らせ

日時：2025年5月25日(日)

会場：大阪府教育会館　たかつガーデン８F

※詳細は、次号ゆめごよみ109号にてお知らせいたします。

※１月の臨時号をご覧の方は日程が変更となりましたのでご注意ください。

応援団からこんにちはvol.10

災害時にはより小さな地域単位、「町」や「村」での情報が必要になってきます。そこで、いざ、災害が発生したときに「地域単位」で情報収集してくださる団体を募集することにしました。それが「ゆめ風応援団」です。

「ゆめ風応援団」のみなさんからの自己紹介をかねたメッセージをお届けするシリーズ第10弾！

大阪障害者労働センター マツサクぐる～ぷ（大阪市平野区）　代表　まつば　さくじ

私たちマツサクぐる～ぷは、1983年に**障害者の自立・労働・仕事を考え・行動する場**づくりをめざしてスタートしました。

あれからもう40年…。社会的なハンディをもつ者にとっては、まだまだ社会参加できる場も少なく、周りの理解を深めて行くことも並大抵のことではありません。それらの現実に立ち向かい、ありとあらゆる手段を駆使し、障害の有無にかかわらず仲間たちとともに、社会の仕組みの矛盾との闘いに日夜奮闘しています。

　ゆめ風基金の救援活動は阪神淡路大震災の時です。大阪からは様々な団体が現地での支援を行っていましたが、マツサクは自分達ができる事として大阪市内の主要な駅の前でカンパ活動を行いました。東日本大震災の際も、難波の高島屋前でカンパ活動を続けました。

　今回の災害でもそうですが、被災地でのトイレの問題は本当に大変だと思います。私自身車いすでの生活で、地域の病院へ通院しています。その病院には車いす用のトイレもあるのですが、手すりが一つ足らないため便座への移乗に体力と時間を要しました。他の病院でも同じ様な問題があり、声をあげる事も空しくなる時がありますが、あらゆる事に関してこれからもあきらめず声を上げ続けなければならないと思っています。

ゆめ風応援団　107号掲載図解の訂正（お詫び）

前回掲載しました応援団の図解に過ちがありました。正しくはこちらになります。

ゆめ風ネットとは

ゆめ風基金の団体正会員となり、総会に出席いただくことができます（年会費2000円）。被災障害者救援活動を目的としています。自然災害が起きた時は、地域の被災情報等をお寄せいただき、ゆめ風基金から支援のご協力をお願いすることもあります。

応援団とは

災害時にゆめ風ネットの活動に対して情報提供などのご協力いただきます。

カンパを頂いた団体　2024/03-2024/06

能登半島地震発災後から、たくさんの個人や団体の方々よりご寄付いただいております。心より感謝いたします。

1/13 桑の木（仙台市）

1/15 日本ふうせんバレーボール協会大阪支部（八尾市）

1/17 共生シンフォニー（大津市）

1/18 黒川こころの応援団（黒川郡）

2/6 自立生活センター三田（三田市）

2/18 黒川こころの応援団（黒川郡）

3/1 あんとふる（小松市）

3/1 サポートセンターわかくさ（大阪市）

3/4 ソーシャルアクション・パートナーシップ（京田辺市）

3/4 らふ（さいたま市）

3/4 ピープルファースト北海道（札幌市）

3/5 鈴木レディスホスピタル（金沢市）

3/6 坂町心身障害児者ゆずりはの会（安芸郡）

3/6 葉山健康研究会（三浦郡）

3/6 障害者の自立を支えるサポートネットワーク（豊中市）

3/7 福祉のまちづくりの会（田村市）

3/10 ゆずりは（吹田市）

3/12 ガチャバンともに生きる会（世田谷区）

3/12ここの家（和泉市）

3/12 ハートフル親の会（大東市）

3/14 ABC研究所（北九州市）

3/15 八木一男福祉会（宇陀市）

3/15 イーハートーブ（さいたま市）

3/15 京都ダウン症児を育てる親の会トライアングル（京都市）

3/18 黒川こころの応援団（黒川郡）

3/18 ゆっこ自立福祉会（上田市）

3/18 諫早手話サークル（諫早市）

3/19 JDS日本ダウン症協会奈良北支部バンビーナの会（奈良市）

3/19 上福岡障害者支援センター21（ふじみ野市）

3/19 自立生活センター立川（立川市）

3/21 みたか街かど自立センター（三鷹市）

3/25 自立生活センター松山（松山市）

3/25 一七市実行委員会（神戸市）

3/26 ピアサポートみえ（津市）

3/26 CIL神戸Beすけっと（神戸市）

3/26 知的障害者を普通高校へ北河内連絡会（枚方市）

3/26 日本ダウン症協会（豊島区）

3/27 CILひこうせん（行田市）

3/27 パーソナルサポートひらかた（枚方市）

3/27 地域生活きたのセンターぱお（札幌市）

3/29 発達障害サポートセンター（大阪市）

3/29 かまくら福祉・教育ネット（鎌倉市）

4/1 兵庫虹の会（宝塚市）

4/3 クッキープロジェクト（さいたま市）

4/4 あんとふる（小松市）

4/5 障害者活動センターあゆみ（安芸郡）

4/8 アルビーノ村お客様と共に能登応援（さいたま市）

4/9 ひびき（白山市）

4/10 耕治（北九州市）

4/15 生活支援研究会（神戸市）

4/15 スッテプワン（伊勢市）

4/16 白陵高等学校（高砂市）

4/16 八木一男福祉会（宇陀市）

4/18 黒川こころの応援団（黒川郡）

4/19 自立生活センター・いこらー（岸和田市）

4/22 吹田障がい者協議会（吹田市）

4/23 みたか街かど自立センター（三鷹市）

4/25 箕面市人権協東日本義援活動（箕面市）

4/25 ぶったぁ福祉会（淡路市）

4/25 CILくにたち援助為センター（国立市）

4/26 草の実会（札幌市）

4/26 いちごの会（大阪市）

4/27 大フォーラム実行委員会（杉並区）

4/30 障害者支援センター21（ふじみ野市）

4/30 草の実会利用者家族職員一同　札幌陽風会利用者・家族・職員一同（札幌市）

4/30 大阪ボランティア協会　（大阪市）

5/8 鯛ヶ崎公園プレイパーク（横浜市）

5/9 立教女学院キリスト教センター（杉並区）

5/15 スマイルウオーキング倶楽部（千代田区）

5/16 八木一男福祉会（宇陀市）

5/18 ひなたぼっこ（鶴岡市）

5/18 黒川こころの応援団（黒川郡）

5/20 ふくてっく（大阪市）

5/20 みたか街かど自立センター（三鷹市）

5/20 吹田障がい者協議会（吹田市）

5/21 浜松協働学舎を支える会（浜松市）

5/21 FDM Tokyo（港区）

5/22 FDM Tokyo（港区）

5/22 あじゃ保育園　がじまる保育園　あじゃこども園（那覇市）

5/24 国際障害者年を機に「障害」者の自立と完全参加をめざす豊中市民会議（豊中市）

5/30 田辺三菱製薬労働組合（大阪市）

6/3 吉田町手をつなぐ育成会（宇和島市）

6/3 災害弱者安心ネットワーク高松（高松市）

6/3 国境なきタコ焼き団（名古屋市）

6/3 ここの家（和泉市）

6/3 西淡路希望の家家族会（大阪市）

6/4 日本脳性マヒ者協会全国青い芝の会（東広島市）

6/10 プラスwe（箕面市）

6/11 さんりく・こすもす（大船渡市）

6/12 チャレンシド（知多郡）

6/13 高槻手をつなぐ親の会（高槻市）

6/14 すくすく会（福井市）

6/17 ビーポップ（さいたま市)

6/17 ひまわり洋装店（豊中市）

6/17 ひらの亀戸ひまわり診療所（大阪市）

6/18 デフサポートおおさか（大阪市）

6/19 およりラボ（高松市）

6/21 ABC研究所（北九州市）

6/22 つぼい　のりお商店（名古屋市）

6/24 かたつむり（大船渡市）

6/24 八木一男福祉会（宇陀市）

6/26 自立支援センターぽぽろ（大阪市）

6/26 みたか町かど自立センター（三鷹市）

6/27 らふ（さいたま市）

6/27 冬のチェンバロの会（芝辻町）

■事務局の動き2024/4～6

2024年4月から6月の動きを一部ご紹介します。

毎週月曜日：事務局会議　毎週金曜日：新HP打合せ　1/9より毎週火曜日に能登半島地震支援会議

４月１日　おおさか災害ネットワーク（以下OSN）定例会

４月10日　大阪救援本部会議

４月13日　能登半島地震街頭カンパ

4月18日　此花区介護保険部会講演

４月22日　CILだんない講演

4月24日　理事会

5月1日　OSN能登半島連携会議

5月7日　ゆめごよみ107号編集員会

5月9日　大阪救援本部会議

5月18日　日本障害者フォーラム能登支援拠点開所式

5月29日　CILいわき講演

5月30・31日　防犯防災展参加

6月2日　明治国際医療大学講演

6月3日　理事会、OSN能登半島連携会議

6月5日　OSN災害連携会議

6月5・6日　ゆめごよみ107号発送作業

6月7日　大阪工業大学講演

6月8～11日　能登訪問

6月15～18日　能登訪問

6月13日　ガザ支援報告会

6月18日　自立支援協議会輪島市連絡会参加

6月22日　奈良県網膜色素変性症協会講演

6月23日　京都ダウン症協会講演

6月24～26日　能登訪問

会計報告　別紙

そよ風、つむじ風、六甲おろし/各地からの風だより/2024.4-2024.6

▼いつも気にかけています応援しています（十和田市）

▼能登の震災にお使い下さい（京都市）

▼万博いらない！ 能登の復旧を！ （大阪市）

▼台湾への寄付（さいたま市）

▼災害は他人事ではなく。少しですが有効に使っていただけるところに（広島市）

▼障害者の防災、避難を考える市民の会の有志が集まったお金です。役立てて下さい（宇部市）

▼利用者の安全生活の維持・増進がすすみますように（高槻市）

▼少しずつですが能登の応援の為続けます（倉敷市）

▼２月にコロナで寝込み、精神科の薬が切れたところ、全く何も食べられなくなりました。自分も災害弱者かもしれないと初めて思いました（大阪市）

▼誕生日なので、プレゼントをもらうだけでした、私から何か役立つことができればとささやかですが寄付いたします（豊島区）

▼能登震災の被災地の皆様の為にバザーとコンサートを開いて募った募金です（藤枝市）

▼無事に誕生月を迎えることができました。その感謝をこめて（高知市）

▼寄付金が大災害時に皆さんの助けになっている事を№106たよりで知れ、改めて寄付を続けたいと思いました。山田太一さん影響力のある方でしたね。さみしいです（大阪市）

▼天候不順で体調の維持に苦労します。皆様もどうかご自愛くださいませ（船橋市）

▼災害が続きます。少額ですが（富士見市）

▼ゆめ風ネット加賀で集まった寄付です。よろしくお願いします（金沢市）

▼基金の助けになれば幸いです（蒲生郡）

▼能登とパレスチナの被災障害者支援にわずかですがカンパします（大阪市）

▼機関誌、参考になります。少しですがお役立てください（沼津市）

▼災害がある度に皆様の大変さを思い、胸が痛みます（あきる野市）

▼能登へ復興が全くといっていい程すすんでいません（宇治市）

▼ガザの障害者支援（名古屋市）

▼それでも地球は青いはず（枚方市）

▼能登半島地震に対し心ばかりですが寄付をさせていただきます。宜しくお願いいたします（吹田市）

▼心に痛い毎日、なんとか光が差すようになって欲しい（小牧市）

▼お金は導具です！ 少しですが、使って下さい必要なところへ届け～！！（日野市）

▼世界中でキナ臭い動きがあります。今こそ平和を（長岡市）

▼能登を棄てるな！ 戦争反対！（大阪市）

▼本来はもっと政府がなすべき事です。わずかですが精一杯です（池田市）

▼各地からの風だより皆同じ思い…と読ませて頂いております。お役立て下さい（亀岡市）

▼能登の被災された復興支援よりも外国への援助を優先する現政権に理解できません（静岡市）

▼９３大貧者の一灯です。皆様頑張って下さい（福岡市）

▼ゆめごよみ風だより№107をよみ、誰もがもつ人を思う心の尊さを知り大変勇気付けられます（横浜市）

▼小さいことしかできませんが、ガザの障害者の皆さんに心寄せています、と伝えてどうか無事に生き抜いて下さいますよう（大阪市）

編集後記

▼元ゆめ風基金事務局員のながさき　けいこさんが4月15日に急逝されました（享年61）。NHKラジオ番組「共に生きる」キャスターを11年間経験された後、ゆめ風当事者スタッフとして（講演、司会をはじめ）幅広く活躍なさいました。心よりご冥福をお祈りいたします。▼天災や人災によって苦しむ人は世界で後を絶たず、パレスチナのガザ地区でも戦争が続き苦しんでいる人たちがいます。ゆめ風基金では今年３月と７月にガザ地区の障害者支援のためにピースウィンズジャパンを通じて救援金をお届けしました。支援報告会の様子をYouTubeでご覧いただけます。ゆめ風ホームページのトップページ中ほどの活動日誌をご覧ください。

ゆめ風基金のＳＮＳやウェブサイト